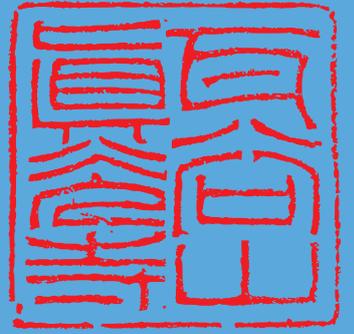


瓦谷山



が こく さん
瓦谷山だより

境内の木々も冬らしい彩りとなりました。気温も寒くなり、猫たちも暖かい場所を求めて日向めぐり。
令和8年が穏やかで良い年になりますように。



令和7年12月号

vol. 60

真光寺住職 岡本和幸

令和七年は戦後八十年の節目の年でした。大正生まれで従軍経験がある父が私を寝かしつけるときの子守歌は、「ここはお国の何百里……」という歌詞で始まる軍歌「戦友」でした。東京オリンピックの前年に生まれた私は、その歌を「神明さん」という地域のお祭りでも耳にしました。そこにいたのは白い軍服のようなコスチュームを着た「傷痍軍人」の方でした。腕や足を失った体で地面にうずくまり、軍歌を流して行き交う人に募金を呼びかけていた、その姿が自らの目で見ただけの戦争の痕跡であったように思います。

ただ広島県ということで被爆者の方々も身近におられ、女学校卒業後すぐに市内中心部の小学校の臨時教員となった私の母は、校庭での朝礼中に広島へ投下された原爆の閃光を目撃したそうです。私のふるさと三原には帝人や三菱重工の工場があつたのですが、空襲は免れました。しかし最近のニュースで、終戦後のアメリカ軍の攻撃目標に三原の名前を見つけ、ぞつとしました。父が戦死していたら、母が空襲で亡くなっていたら生まれていなかったかもしれない、私はそういう危機を潜り抜けていただいた命を生きているのだなと思えました。

さて、晩秋に入って全国的にクマによる人的被害が深刻化しています。先般シャンティ国際ボランティア会の仕事で秋田市に出張したのですが、新幹線を降りてすぐの駅前繁华街でも自動ドアは手動に切り替えてあり、自ずと緊張感を覚えます。秋田市内の御寺院様のお話によれば、かつてはお寺から山まで一キロほどは耕作地や人家が続いていたが、それらが放棄されて山が近づいた気がする、クマにしてみれば山を歩いていたのいつの間にか市街地に入ったという感じではないかということでした。近隣の民家の玄関前で駆除された、二メートルを超える巨大なクマの写真を見て、事態の深刻さを再認識しました。

秋田新幹線の車窓からは、錦秋を感じさせる田沢湖あたりの美しい風景が望めました。荒れ放題になった耕作地も目立ちました。中山

間地の人口流出が著しい中、クマが潜んでいてもおかしくない場所で恐怖を覚えながら作業を続けていくのはさすがにもう無理だろうという思いを禁じ得ません。一方、列車が平野部に入ると、大規模な土地改良工事によって造成された圃場の風景が延々と広がっています。一枚の田んぼの面積が袖ヶ浦の田んぼの三倍以上もあるような光景に、効率化を求める現代農業の今を実感しました。

地方で起こっている出来事は、一見すると都市には関係ないようですが、両者は緊密につながっています。人の生活圏と獣の生活圏は確実に近づいています。千葉は本州唯一のクマが生息しない県ですが、シカやイノシシが団地に出没したり自動車と衝突したりといった事例が多発しています。都会の便利な生活で出たごみは、地方の山や谷を埋め、またヤードという集積場に山積みになっています。そこからしみ出た有害物質は水源地や川に流入し、人々の健康を脅かしています。地方の荒れた山が保水力を失ってしまうと、平野部に立地する都市の水害も増加するといわれます。そして何より都市は食料生産を地方に依存しています。

今から八十年前といえば、そう遠くはない過去であると言えるでしょう。映画「火垂るの墓」で描かれるように、戦後の食糧不足は深刻で、餓死者も続出したといえます。令和の米騒動と揶揄されるここ数年の様相は、お金を出しても品物が無い、あるいは品物があっても売ってもらえなかったという戦後の時代をどこか彷彿とさせます。それと同時にお金を出せば何でも手に入るという錯覚に陥った人間の傲慢さが自然からの痛みいしつぺ返しをも招いている、そのようにも思えて仕方がありません。一個人の力はあまりにも微力ではありますが、過去から現在、そして未来へと続く時の流れの一瞬を生きる私たちは、歴史の教訓を忘れず、できる限りよりよい未来につながるように、日々感謝の心を胸に、共助、共力、調和を大切に、生きていきたいものです。

当山ではお正月三が日にわたり、一年の無病息災を祈る御祈祷法要を三十分毎に厳修いたします。皆様のご参詣をお待ちしています。

合 掌

新年御祈禱のご案内

令和8年1月1日(木)～3日(土) 午前9時～午後4時



新年の初詣・御祈禱に真光寺へお詣りください。

三が日は、薬師如来の御宝前にて新年の厄除け・安全祈願・所願成就の祈禱法要を厳修いたします。ご参列の方は事前にお電話などご予約ください。(希望日時、代表の方のお名前、人数、願意)

お名前と願意を記した木製のご祈禱札を作成し、当日授与いたします。

祈禱法要は30分おきに修行しており、いつでもどなたでもご参加になれます。ただし、事前申し込みのない場合は、木製のご祈禱札はご用意できません。また、ご参列の人数によってはお待たせすることがございますので予めご承知おきください。

- 法要日時 令和8年1月1日(木)～3日(土) 午前9時～午後4時
※3日は正午まで ※法要は30分毎
 - 法要時間 約15分
 - 費用 3,000円～10,000円程度のお布施
 - 願意 木札に書き入れます。下記から2つお選びいただけます。※2名まで連名可能
- | | | | | | | |
|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| ①家内安全 | ②諸災消除 | ③所願成就 | ④如意吉祥 | ⑤交通安全 | ⑥商売繁盛 | ⑦厄除守護 |
| ⑧身体健全 | ⑨当病平癒 | ⑩良縁祈願 | ⑪安産祈願 | ⑫合格祈願 | ⑬身心堅固 | ⑭学業増進 |
| ⑮五穀豊穡 | ⑯千客万来 | ⑰社運隆昌 | ⑱風調雨順 | ⑲疫病退散 | | |

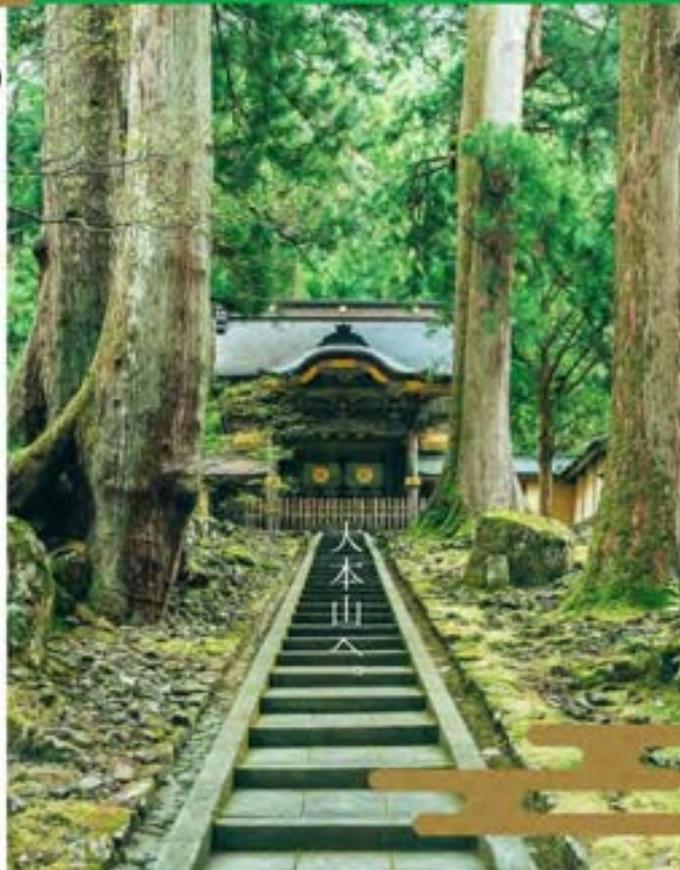
真光寺団体参拝旅行のお知らせ

旅行日程

令和8年6月1日(月)～3日(水)

- 1日 ● 東京ー永平寺
永平寺泊
 - 2日 ● 永平寺ー總持寺祖院
一和倉温泉
和倉温泉旅館泊
 - 3日 ● 旅館ー金沢ー東京
- 永平寺宿坊に泊まれる最後の機会*
 - 永平寺にて坐禅、供養
 - 能登、總持寺祖院訪問

ご家族、ご友人ともお申し込みいただけます。詳しくは別紙旅行案内「大本山永平寺参拝と能登復興支援の旅」をご覧ください。
*近年中に宿坊「吉祥園」が取り壊しの予定



数年に一度の特別な訪問。毎回初参加多数。大本山永平寺団参。

永平寺団参旅行は、数年に一度だけ催行する特別な機会。毎回初参加の方も多く、同じ修行の時間を過ごすことで、新しいご縁が自然と結ばれます。住職、僧侶のご案内しますので、お一人でも安心してご参加いただけます。

活動報告

縁の会総会

十一月三日、第十四回縁の会総会を開催いたしました。



当日朝の真光寺の境内

前日まで天候の悪い日が続いておりましたが、当日は雲一つない晴天。心地よい秋の風がそよぐ真光寺の境内には、開式の時間が近づくにつれ続々と参加者が集まり賑わいました。

参加された皆様への記念品として、象のお守りとアクリル東子をご用意いたしました。

午前は書院に於いて十一月の月霊供養とのぼり旗奉納を厳修。その後、住職から前年度の会計報告及び現在行われている鐘楼堂建設事業や今後の展望について説明しました。事務局からは、お墓参りの

案内や墓地管理の説明に加え、樹木葬墓地の新しいタイプの区画造成予定などについて説明しました。



法要の様子



住職からの会計及び事業報告

午後はチャリティ寄席。落語家の柳亭芝楽師をお招きしました。出陣子の音楽に合わせ笑顔で登場。高座に上ると、たいへんユーモアのある自己紹介



柳亭芝楽師による落語

から始まり、「金明竹」という落語で楽しませていただきました。終演後に皆様から寄せられた募金はアジアの子どもたちへの教育支援に有効活用させていただきます。ご協力ありがとうございました。

来年もまた皆様のご参加を心よりお待ちしております。

里山整備活動

上総自然学校の活動休止をお知らせしてから早いもので一年が過ぎようとしております。その間も田んぼの米作りは継続して行い、ありがたいことに今年も予約開始直後に完売となりました。

里山の整備計画については様々な協議を重ねてきましたが、先ずはお寺の向かいにある浅間山の整備を始めたい

こうという結論に達しました。浅間山はお寺の目と鼻の先にあり、駐車場もトイレへのアクセスも自然学校の田んぼと比べればとても便利です。



過去にも何度かご紹介いたしましたが、浅間山には真光寺に縁のある十二神将の

祠や御神木のスダジイ、かつて里見氏が構えた巨大な山城跡と考えられている川原井里見城跡など魅力的な場所が数多くあります。また、田んぼや畑もあり、将来的には米作りや自然観察会なども開催出来ればと考えております。

現在はお寺の職員と地域住民の方数名で月に2回程度整備作業を行っておりますが、元々が山城ということもあり起伏が激しく、長年放置されてきた為に、大きくないすぎた雑木や密集する竹、枯れていつ倒れてくるとも分からない危険木などが多く、作業は朝夕には進みません。里山の整備にご興味のある方、里山の自然に囲まれて体を動かしたい方、浅間山の整備作業へのご参加をお待ちしております。



新樹木葬墓区画のご案内

■真光寺縁の会入会費用変更のお知らせ

現在の縁の会の新規入会者（区画を新規に申し込む場合の区画の一人目）の入会費用を来年の四月一日より現在の八〇万円から九〇万円に変更します。現在使用されている区画への追加申し込みについては四〇万円のまま、変更はありません。新規の区画申し込みを検討しているご親戚、ご友人がいらっしゃる場合にはお知らせをお願いいたします。

■新しいタイプの区画ができます。

縁の会墓苑「森の苑」には調整用の余白地が設けられています。その箇所に現在の「森の苑」に比べて小さいサイズの区画をご用意します。区画寸法は間口〇・九m、奥行き一・二mで計画しています。費用は一人目七〇万円、二人目四〇万円となる予定です。

こちらも来年の四月を目標に整備を進めています。お参りの近くで作業をすることもありますが、何卒ご理解賜りますようお願い申し上げます。



 新しい区画ができる場所
(木杭や板が設置されています。)

鐘楼堂建立ご寄進の御礼と 進捗のご報告

去る10月11日より、鐘楼堂(鐘つき堂)の基礎工事が始まりました。現在(11月25日時点)は、基礎部分のコンクリート打設、周囲の石張りが完了、いよいよ本体の工事に入ります。

当初は年内完成を目指しておりましたが、近年の物価や人件費の高騰により、基礎工事会社の確保に時間を要し着工が遅れたため、今年の除夜の鐘には間に合いそうにありません。多くの方にご理解とご協力をいただきながら、安全第一で着実に工事を進めておりますので、完成までいましばらくお待ち下さい。



このたびは当山の鐘楼堂建立にあたり格別なるご寄進を賜り、誠にありがとうございました。
ここに心よりの感謝を込め、ご寄進賜りました皆さまのご芳名を掲載させていただきます。

- | | |
|-------|-------|
| 青木 一朗 | 石川千恵子 |
| 青木 カヨ | 岡本美和子 |
| 河内 敏夫 | 庄子 緑 |
| 河内美智子 | 中村 真理 |
| 佐藤 英輔 | 森 桂子 |
| 田中 達夫 | 山本千恵子 |
| 石川 豊 | 横山 若菜 |
| 石川 弘子 | |
| 野沢 栄二 | |
| 安彦 悦子 | |

敬称略
(順不同)

【連載】西上総風土記 第五回
馬のあるくらし
— 馬匹文化と西上総 ① —

文・井口崇

もうすぐ年の瀬。齢を重ねるとともに、過ぎ去る日々のスピードは加速しているので、あつという間に正月を迎えることになるだろう。

今回は、十二支「子・丑・寅・卯・辰・巳・午・未・申・酉・戌・亥」の七番目に割り当てられている来年の干支、午馬と、古代の馬匹文化*の話題にしようと思う。

*馬匹文化＝馬匹とは、馬の個体や群れを指す言葉である。馬匹文化は人と馬が関わることで形成された文化的な価値観・習慣・技術の総体。交通運搬、軍事・農耕、儀礼・信仰など様々な領域で重要な役割を果たすものとなった。

午年と十干・十二支

来年は十二支でいうと午年である。そして十干・干支でいうと丙午になる。

干支は、古代中国の暦法に基づくものである。十干「甲乙丙丁戊己庚辛壬癸の10種類」と、先の十二支の組合せで日付や順序、時間・方角・年などを表すもので、古い

などにも用いられてきた。

「十干」は、陰陽説（宇宙の森羅万象を「陰」と「陽」という対立する性質で捉える思想。）と五行説（自然界を構成する5つの要素「木・火・土・金・水」によって万物を説明する思想。）を融合させたもの。この五行思想の考えを基に、五行「木・火・土・金・水」を割り当て、さらにそれらを陽「兄＝え」と陰「弟＝と」に二分したものである。したがって、甲＝木の兄＝きのえ、乙＝木の弟＝きのと、丙＝火の兄＝ひのえ、とよんで、それぞれに意味をもたせてきたものといえる。「十二支」は、年を表すために使われる12の動物であるのはご承知のとおりである。干支を「えと」というのは、もうおわかりのように十干＝五行を兄（え）・弟（と）に分けた読み方に由来している。この「十干」と「十二支」を組み合わせると、1組目が甲と子で甲子、2番目が乙丑、3番目が丙寅となつて続き、60番目が癸亥になる。

私は申年である。物心ついた頃に十二支の順番の話をかきかされて

いた気がするし、申年だと教えられていたので、それと知っていた。しかし、生まれ年の昭和31年が丙申にあたりと知ったのは、大人になつてからだつた。そんな私の体験からすると、十二支のほうが十干よりも身近だった気がするが、いかがだろうか。

さて、もう少し干支に関する話にあたる。かつては迷信もあり、出生率が落ち込んだというデータもある丙午ではあるが、表1「十干：五行と陰陽の関係」と表2「十二支：動物・五行・陰陽等との関係」を見てみよう。丙は、五行では火（陽）

古代馬のルーツ

となり、情熱・活力・夏・陽気の象徴とされる。また午は、十二支では動物の馬、これも五行では火（陽）となり、明朗・行動力の象徴とされる。丙午は「最強の干支」とも称されるほどのパワーを秘めているとされる。来年は、迷信などにとらわれずそのエネルギーを活かして、素晴らしい年にしていきたいものだ。

ここからが本題。元来、日本列島には馬は存在しなかった。3世紀頃の倭（日本）のことを伝える中国の歴史書『三國志』の「魏志倭人伝」には、倭

には馬がないと記されている。では、いつ頃、どのようにして馬は日本列島にやってきたのだろうか。日本列島への馬の渡来（移入）は、弥生時代後期（3世

五行	陽（兄＝え）	陰（弟＝と）
木	甲（きのえ）	乙（きのと）
火	丙（ひのえ）	丁（ひのと）
土	戊（つちのえ）	己（つちのと）
金	庚（かのえ）	辛（かのと）
水	壬（みずのえ）	癸（みずのと）

表1 十干：五行と陰陽の関係

順	十二支	動物	五行	方角	陰陽
1	子（ね）	鼠	水	北	陽
2	丑（うし）	牛	土	北北東	陰
3	寅（とら）	虎	木	北東	陽
4	卯（う）	兎	木	東	陰
5	辰（たつ）	龍	土	南東	陽
6	巳（み）	蛇	火	南南東	陰
7	午（うま）	馬	火	南	陽
8	未（ひつじ）	羊	土	南南西	陰
9	申（さる）	猿	金	南西	陽
10	酉（とり）	鶏	金	西	陰
11	戌（いぬ）	犬	土	北西	陽
12	亥（い）	猪	水	北北西	陰

表2 十二支：動物・五行・陰陽等との関係

(紀)から古墳時代前期(4世紀代)

に散発的におこなわれ、その後の

古墳時代中期(5世紀)以降の本

格的な移入をもって、馬を飼い・

育て・利用する営み(馬匹文化)

が盛んになったと考えられている。

その理由は、4〜5世紀の朝鮮半

島情勢に求めることができる。当

時の状況については、有名な「広

開土王碑文*」に詳しく記されて

いる。その概略は、倭国は朝鮮半

島南部に勢力を伸ばそうとしてい

たが、騎馬戦力に優れた高句麗が

勢力を増し、新羅・百濟などの半

島南部の諸国を圧迫していた。そ

れに対し新羅・百濟は当初、高句

麗に従属する戦略をとるが、やが

て百濟は危機感を抱いて、近隣の

小国(加耶諸国)や倭国と同盟関

係を結び、倭国(ヤマト王権)は百

濟の求めに応じ軍事支援をする。

しかし、広開土王によって、倭国

は敗退を余儀なくされたというも

のである。

つまり倭国は、騎兵による攻撃

を得意とする民族との戦いで敗北

したということである。こうした

を進めていくことになるのである。

*広開土王碑文Ⅱ広開土王碑文は、

高句麗の第19代王・広開土王(好

太王)の業績を称えるために建て

られた石碑。朝鮮半島や倭(日本)

との関係を記した貴重な歴史資料。

現在の中国吉林省集安市にあり、

414年に広開土王の子・長寿王

によって建立された。

海を越えた古代馬

朝鮮半島の南部から対馬を経由

して九州北部や山陰に馬を運ぶに

は、船が必要になる。4世紀以前

の状況では、一度の航海で多くの

馬が運ばれたとは思えないが、5

世紀以降は大量に馬の移送があっ

たとみるべきであろう。朝鮮半島

から倭国に馬を移送したという史

料はないが、その逆ならば、『日本

書紀』欽明天皇15年(554)に

も、推古天皇31年(623)にも

「40隻の船に馬百匹を載せて、任那

(伽耶)に送った」という極めて

類似する記事がある。年代が一世

代違うので、一種のコピー・アンド・

ペーストかもしれないが、信憑性に欠け

海を越えた古代馬



写真2 馬形埴輪
-三重・鈴鹿市石薬師東古墳-



写真1 船形埴輪
-三重・松阪市宝塚一号墳-

古代馬が日本に移入されてきた道、そのルートは、図1のように推定されている。

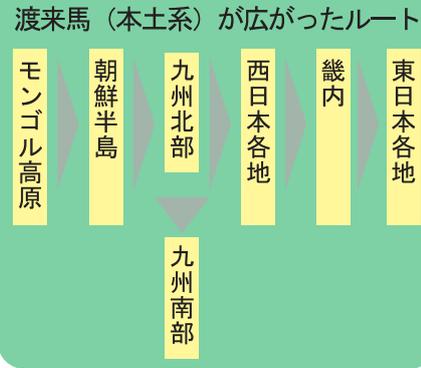


図1

のにはなり得るだろう。こうした5世紀以降の海を渡る馬の大量移送には、写真1の埴輪に見るような、準構造船とよばれる大型の船が用いられたことが推測できる。そこには優れた造船技術、航海技術があったのだろう。

本土系(九州・四国・本州に分布)の馬は、モンゴル高原にルーツを求めることができるという。それが朝鮮半島から、対馬を経由して九州の北部にもたらされた。そしてそこから南九州や本州各地へと伝播していったことが、発掘された馬の歯や骨などの研究で明らかになっている。また各地の遺跡から出土する馬具、馬形埴輪など、馬に関する資料の出現時期と分布などから、古墳時代中期以降、ヤマト王権の勢力拡大に伴って馬匹文化は関東・東北部にまで及ぶことになるのである。

—以下次号へ—

次号では、古代社会において交通・運輸、軍事・農耕にとどまらず、儀礼や祭祀などにおいて馬が果たした様々な役割を通して古代社会をのぞいてみましょう。そして、馬の産地となった東国や西上総の馬匹文化を紹介したいと思っています。ウマく書けるように精進齋をして、丙午の最高のエネルギーをいただいて、新年を迎えたいと思います。

いぐちたかし

1956年 和歌山県生まれ。
前 袖ヶ浦市郷土博物館長
現 和洋女子大学非常勤講師

檀信徒の皆さまのお葬式についてのご案内

真光寺檀家、縁の会の皆様から日常的にお寄せいただくご質問を前提に、お葬式について簡易にわかりやすくまとめました。ご自身やご家族のお葬式をどんなふう準備するか、ご検討中の皆様はぜひご参考にしてください。

まず、ご希望のお葬式のイメージを確認しましょう。

1. どこでお葬式を執り行うか？ 【お葬式の会場を決める】

- ① 自宅
 - ② 葬祭ホール
 - ③ 真光寺
- 最近ご自宅での施行はほとんどなく、葬祭ホール（葬儀社や火葬場の会館）が一般的です。場所にかかわらず、どちらでも菩提寺として真光寺の僧侶が伺います。日程も基本的にはご希望に沿って調整します。真光寺を会場として緑の中でのお葬式という選択もあります。

2. 誰に参列してもらおうか？ 【お葬式の規模を決める】

- ① 家族のみ
 - ② 家族と親族
 - ③ 友人、知人まで含める
 - ④ 会社関係まで知らせる
- お葬式の規模と形式も様々ですが、家族だけで見送るとい

スが増えてきました。親族、友人など、職場の関係者、どの範囲のご縁の方まで参列していただくかによって会場選択が異なります。

3. どんな形で見送るか？ 【お葬式の形式を決める】

- ① 一般葬（通夜、告別式・火葬）
 - ② 一日葬（通夜なし、告別式・火葬）
 - ③ 直葬（葬儀なし、火葬のみ）
- 家族だけの数名で一般葬を執り行うこともできますし、会社関係の方まで含めて大規模な一日葬とすることも可能です。直葬はお葬式をせず火葬のみです。

4. どのくらいの費用を想定するか？

1〜3をどう選ぶかによって費用が決まります。「葬儀なし火葬のみ直葬」でも火葬費諸経費等で二十万円〜三十万円ほどかかりますので、お葬式のやり方によってはお布施や葬儀社の費用等が必要になります。ご参列の人数や個別のご要望によって費用は上下します。

いざというときは

事前に会場や葬儀社が決まっている場合は、ご逝去された時点で葬儀社にご一報を入れることで葬儀社の手配によりお迎え準備、施行が進行します。

「何も決まっていない」という場合、病院でのご逝去でしたら、病院の契約葬儀社がすぐに対応してくれます。各葬儀社の葬祭ホールや公共のホールが選択できます。

真光寺を会場に、というご希望でしたら、真光寺または真光寺の契約葬儀社へのご連絡をお願いいたします。

お葬式を執り行わず火葬のみの直葬の場合でも火葬炉前でのご供養をすることができます。ご逝去の一報は必ず真光寺にご連絡ください。

真光寺を会場としてお葬式を執り行う場合の流れ

真光寺を会場とする場合は、ご希望の葬儀社でも良いですし、真光寺が契約している葬儀社がありますのでご紹介します。お葬式の規模（お知らせする参列者の範囲）、形式（一般葬、一日葬）を決めて

ご相談ください。
費用は、葬儀社さんとの打ち合わせにてお見積りとなります。

■お葬式の流れ（一般葬の場合）

- 1 ご逝去
↓真光寺または葬儀社へのご連絡
- 2 寝台車にてご遺体のお迎え
↓ご自宅または真光寺にご安置
- 3 打ち合わせ、枕経
- 4 会場設営
- 5 通夜
- 6 告別式、出棺・火葬
- 7 納骨は一般的には四十九日
(○葬儀当日の納骨もできます。)

※ご遺体を病院からご自宅にご安置された場合は、ご遺体のお迎えが会場設営後となる場合がございます。
※行事等の都合により長期のご遺体お預かりはお断りする場合がございます。

葬儀社などの葬祭ホールで行う場合も流れは同じです。

以上は通常のお葬式の流れですが、遠方にお住いの方やご家族のご都合などですぐにお葬式ができない場合などにお選びいただける方法として、火葬を先に行いご遺骨でお葬式を営む「里山葬」という形式もご用意しております。ご不明の点については、ご遠慮なくお問い合わせください。

【連載】上総自然学校フィールドの希少な生き物たち 第十七回

ニホンアナグマ

文・大島 健夫

千葉県にはクマはいません。県内の縄文遺跡からも出てこないのです。本当に昔からいなかったようです。かつて海に囲まれた島状の地形であり、その後、周辺の平野部が早くから都市化された房総半島には、歴史的にみてツキノワグマが入り込むことができなかったのです。

いっぽう、「アナグマ」ならそこらへんにけっこういます。川原井の谷津田でもその姿を見、生活の痕跡をとらえることができます。

アナグマというのは、名前にクマとついているだけでクマ科ではありません。形や大きさはタヌキやアライグマに似ているけれど、イヌ科でもアライグマ科でもありません。実は、イタチ科の哺乳類です。



スマートですがしつこくて小顔のイタチと、太っていてよちよち歩く、顔の大きなアナグマが親戚というのはなんだか不思議な気がします。アナグマも時と場合によっては非常にしなやかに速く動き、やっぱり血筋は争えないなあと思います。

日本列島にすむニホンアナグマは、尻尾をのぞくと、鼻の先からお尻までは50〜60cm程度とイエネコくらいの長さである一方、先に書いたように固太りなので体重は10kgを越えます。鋭い爪のついたとても逞しい5本指の足をしていて、これで森の中に精巧で巨大な巣穴を掘ります。この巣穴には出入口が複数あり、おり、だいたいそのうちひとつは林縁の斜面などに開口し、またその斜面の上の平らな地面にも別な出入口があったりします。この巣穴は、直したり広げたりしながら家族で累代、使い続けるということですが、先祖代々働き者というわけですが、中にはものぐさな奴もいるようで、私は千葉市内で、土手に開いた雨水のオーバーフロー管に植物を運び込んで巣穴に使おうとしているアナグマを見たことがあります。その後大雨が降りましたから、あのアナグマはひどい目に遭ったことでしょう。



日が落ちて暗くなると、アナグマは穴から出てきて積極的に活動します。夜間房総丘陵を車で走っていると、よく歩いているアナグマを見かけます。主な食物は、両生類・爬虫類、昆虫類、果実などで肉食寄りの雑食です。地面を歩き回るだけでなく、木にも登れます。日中でも行動することがあり、突然、U字溝からひよっこり顔を出したりもします。目の悪いアナグマは、風向きによっては、ふらふらとすぐそばまで近寄ってきてしまうこともあり、山の中でアナグマが足元まで来てから突然、こちらに気づいてすぐく傷ついた顔をして逃げ出す：なんてことを何度か経験しました。そんなこともユーモラスな感じのする動物です。

いずれにしても、森林にすみ、ツキノワグマほどではないにせよ体が大きく、広い行動範囲を持っていて様々なものを食べるアナグマが生きていることは、今もなお地域の里山が豊かである一つの証明です。

アナグマは食べられるそう、かつては専門の猟師さんもいたようです。沼田眞・大野止身監修の太著『房総の生物』には「大正年間には、特別に訓練したイヌを使ったといわれる。一頭のイヌをムジナの穴に入れると、イヌは血だらけになつて後ずさりしながら、アナグマをくわえて出てくるのだぞうだ。当時、毛皮は五円という高価で、肉は脂がのつて歯こたえもあり、しょう油と砂糖の味つけで、すき焼き風にして食べたという。当時の

山村の「ちこそうであつた」という記述があります。ムジナというのはアナグマの別名です。イヌの特別な訓練というのは果たしてどうやってやったのでしょうか。イヌにしてみれば命がけです。鋭い爪を持つアナグマはいざとなると相当強そうですから、穴の中で反対にイヌがやられてしまうこともあつたでしょう。大正時代の一円の価値は、今のお金に換算して千円から四千円くらいだそうなので、毛皮はだいたい一万円にはなつた勘定になります。アナグマをとり、毛皮を現金に換え、皆で肉を食べる。わずか百年ちょっと前の房総人たちのワイルドな暮らしがしのべれます。

ニホンアナグマ *Meles anakuma*
食肉目イタチ科
千葉県レッドリスト・C (要保護生物)

おおしま たけお

詩人。1974年千葉県生まれ。詩の朗読の日本選手権・ポエトリースラムジャパン2016優勝。パリで開催されたポエトリースラムW杯で準決勝進出。一方でネイチャーガイドとしても活動。
千葉県野鳥の会会長、日本トンボ学会会員。環境省希少野生動植物種保存推進員。近著「擬態する生物のきもち」(メイツ出版)好評発売中。

行事予定 | どなたでもご参加いただけます。

精進料理と聖典講読の会



曹洞宗を中心とした仏教の諸典籍を住職がわかりやすく丁寧に解説いたします(約1時間)。
お昼は料理経験豊富な僧侶が丹精込めて作る精進料理をいただきます。午後は自由参加で、坐禅・写経をいずれかの修行体験をお選びください。

日時：1月30日(金) / 2月24日(火) /
3月30日(月) / 4月23日(木)

全日とも午前11時～午後2時30分

布施：3,000円程度(昼食代込)

※要予約



料理担当の大御師

坐禅会

布施：500円程度
※予約不要

初心者の方でも無理なく坐禅を体験いただけるよう、真光寺の僧侶が丁寧にご指導いたします。椅子を使っての坐禅も可能です。

時には喧嘩から離れ、静寂のなかに身をつつみ、仏祖正伝、曹洞宗の坐禅体験はいかがでしょう。



慈嶽堂1F 坐禅堂

※初めての方は坐り方の御案内をいたしますので、午後2時30分までに寺務所へお越し下さい。

日時：毎月 第2・第4土曜日
午後3時～午後4時30分

写経会

納経料：1,000円程度
※要予約

祈願や供養、また精神修養などのため、お経を書写しませんか。夕照庵(小書院)にテーブルと椅子を置きました。ゆったりとした静かな空間で、心を整えて写経ができます。



夕照庵

※道具は用意してありますが、ご持参されても結構です。



日時：1月7日(水) / 1月30日(金) /
2月7日(土) / 2月24日(火) /
3月7日(土) / 3月30日(月) /
4月7日(火) / 4月23日(木)
全日とも午後1時～午後2時30分

【その他のどなたでも参加できる行事】

行事名	日程	時間	費用
御詠歌練習日	2月4日(水), 18日(水) / 3月4日(水), 18日(水) / 4月1日(水), 15日(水) / 5月6日(水), 20日(水)	午後3時～ 午後4時30分	無料
仏像彫刻教室	毎月 第1・第3水曜日 ※初回の方は要事前申込 お問合せは仏師 鈴木先生まで TEL. 0438-63-2848	午後1時30分～ 午後4時30分	4,000円

真光寺と駅、バスターミナル間の送迎もありますのでご希望の方は裏表紙をご参照ください。

ラインご利用いただけます [ご登録用QRコード](#) →
ご祈祷、ご法事、各行事、塔婆、住所変更等のお申し込みお問い合わせは真光寺LINEでもお申し込みいただけます
ID検索：shinkoji634



行事予定

【檀信徒様対象】

■ 新年修正会

檀信徒の皆様の一年の安全、諸願成就を祈願し、ご祈祷法要を行ないます。

日時：1月3日(金) 14時～

■ 山門春彼岸法要

お彼岸の中日に春のお彼岸法要を行ないます。

日時：3月20日(金・祝) 14時～

【縁の会会員様対象】

■ 七日法要

11時より授戒式・月例供養法要。昼食を挟み、午後は坐禅・写経いずれかの修行をお選びいただけます。

※要事前申込

※午前、午後のみのお出席もできます。

■ 縁の会春彼岸法要

縁の会の春彼岸法要を行ないます。参列できない場合でも、塔婆供養で御供養することができます。お電話等でお申込みください。

※要事前申込

日時：3月20日(金・祝) 11時～

日時	1月 7日 (水) 午前 11時～ ※餅つきの後、午後は新年ご祈祷法要
	2月 7日 (土) 午前 11時～
	3月 7日 (土) 午前 11時～
	4月 7日 (火) 午前 11時～

■ 戒名を考える会 ※縁の会会員 特に未受戒の方

午前中は戒名の意味や仏教の概略のお話、精進料理の昼食をはさみ、午後は住職とともに漢和辞典を引きながらご自身の戒名を考えます。

※要事前申込 ※持ち物：漢和辞典

日時：3月6日(木) 午前11時～午後2時30分
参加費：3,000円(昼食付)
定員：10名

送迎のご案内

【午前】

□電車の方

- ・上り電車の方(君津発千葉行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時05分着
- ・下り電車の方(快速君津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」10時10分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発9時15分→袖ヶ浦BT10時17分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

【平日】

- ・品川発9時00分→袖ヶ浦BT 9時52分着
- ・横浜発9時00分→袖ヶ浦BT 9時46分着
- ・川崎発8時30分→袖ヶ浦BT 9時27分着
- ・新宿発8時30分→袖ヶ浦BT 9時30分着
- ・東京発9時10分→袖ヶ浦BT10時05分着

※高速バスダイヤ変更のため、新宿発は平日午前のみ運行となりました。

【午後】

□電車の方

- ・上り電車の方(快速逗子行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」13時05分着
- ・下り電車の方(千葉駅発木更津行き)
JR内房線「袖ヶ浦駅」12時50分着

□バスの方

【土日祝】

- ・品川発12時00分→袖ヶ浦BT12時52分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発11時30分→袖ヶ浦BT12時32分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

【平日】

- ・品川発11時50分→袖ヶ浦BT12時42分着
- ・横浜発12時00分→袖ヶ浦BT12時46分着
- ・川崎発12時00分→袖ヶ浦BT13時02分着
- ・東京発11時40分→袖ヶ浦BT12時35分着

各種お申込み連絡先

曹洞宗 真光寺 〒299-0201 千葉県袖ヶ浦市川原井634
TEL. 0438-75-7414(代表) / 0438-75-7365(縁の会事務局)
FAX. 0438-75-7630 Email. ennokai@shinko-ji.jp(縁の会)

瓦谷山だより

発行日 2025年12月15日 / 発行人 真光寺 岡本和幸
印刷 現代社 / 編集 真光寺
問い合わせ先 真光寺 TEL. 0438-75-7414(代表)
Webサイト <https://www.shinko-ji.jp/>